

## ～あなたには確信がありますか？～

あなたは、自らの心に「自分はこうだ！自分はこう生きる！」と言うものがありますか？これがあるか無いかで人生は大きく変わります。自分の考えではなく人の考えや様々な情報に頼るといふ芯のない考えの人が多いです。自分の心の中心が失われているのです。「自分はこうあるべきだ！自分はこうなんだ！」という、自らがどうあるべきかをしっかり理解している正しい心、聖書で言う良心が無いのです。私たちはそれぞれ、自分の欲しいままに行動すればよいのです。私たちに任されているのだから…しかし、その任されている意味を、なぜ私たちにそれが任されているのかをしっかりと理解する必要があります。それは、私たちに物事を判断して処理できる力があると見込まれているからです。あなたは、心の中心で物事を判断していますか？表面の感情や思いつき、思い込み、客観的な意見などで行動していないでしょうか？今あなたがしようとしていることを通してこれをやってどうなるか、あなたの良心と照らし合わせて判断をしていますか？教会に来てるとその判断基準に聖書があります。ですから聖書を知っている人は強いのです。私たちに不可能なことを可能にする力を与えてくれているのは神さまです。それがあからこそ私たちは希望がもてるのです。ですから、私たちはこの聖書の言葉を知った以上は私たちの心の中に正しい良心をきざみこみ、やって良いことと悪いことをしっかりと判断して物事に取り組むべきです。私たちの体をつくっている細胞はそれぞれ自らの判断で生きています。その判断をしているものは核・DNAです。DNAは、その人を生かす役割を果たしています。その人がその人であるべく生かしているのです。私たちをつくっている細胞に核があるのに私たちの心には核がなく、自己中心に生きてしまっています。しかし創世記の最初に何と書いてありますか？「人は、それを制するべきである」と書いてあります。(創1：26)(ローマ14：5～12)この中には確信を持っていない人が何をするのが書いてあるのです。心の中にしっかりとしたものがない人は人を裁くのです。人を指さすのです。どうしてかという自分指さすのがつらいからです。自分が良い意味でも悪い意味でも「したいなあ」と思っていることをしてしまう人は自分にとって嫌な人です。このような考えをする人は「自分はこうあるべきだ」というものを持っていないのです。あなたは「自分はこうあるべきだ」というものを持っていますか？私たちは、何をすることもなぜするのかを考えるべきです。これをする人は、物事全てに確信があるので後悔・失敗がありません。その人が己のすることが正しいと思ってるからです(5節)。それぞれ神さまの前に正しいと思ってるのは良いと書かれています。あなたの価値観に合うことと合わないことが起こった時に自らできっちりと判断できているかが重要です。「まあいいか・まあちょっと」を無くさなければいけません。簡単に言えばあなたが何をするときも「こうなんだ」と理由をちゃんと説明できるように決めて行動するという事です。そうすると何が起きるかという後で言い訳が出ません。しっかりと信じて確信して正しいと思ってるからです。そうして言い訳が起らなくなると誰かのせいにする事が無くなります。これが無くなることで相手に対する憎しみ・嫌なイメージが無くなります。だから私たちはリフレッシュされ、いつも心がクリーンな状態でいられます。私たちの心の中で一番問題を起こす・感情を動かすのはみんなあなたと接する人です。あなたと接する人にあなたがなぜ腹を立てるのかという、あなたが相手にしたかった事が相手にできなかった故に、さいなまれていたら、今度は相手がそのできなかったあなたに対して文句を言ってきたからです。そうすると相手に対して怒りが沸いてきます。親しければ親しいほどです。自らの核の無さから出る弱さがあると思います。一部では確信を持って実行できても、ある部分・弱い部分を突かれると正しくないことをやってしまう…。これが私たちの弱さです。聖書には全部で1188章あって、一番短い章は詩編117篇、逆に一番長い章は詩編119篇です。そして聖書の真ん中は詩編118篇8節「主に身を避けることは、人に信頼するよりもよい」です。聖書の根元です。数字も御言葉も偶然とは思えません。あなたの心の核が人に信頼するものなのか神により頼むものなのかということです。人や物や自らが得てきた実績や立場や経験…そういうところに中心をおくと人は自己中心になります。しかし、聖書には「主により頼め」と書かれています。すると今までの過去の辛い傷やこれから起こるだろう失敗も主により頼むことで癒され、そしてこれからはなければならない難しい問題に対しても自らにはできないが神さまを信じる私たちにはどんなことでもできると言って進むことができるのです。私たちをつくっている細胞でさえ核を持っていて忠実に仕えています。であれば、私たちの心ぐらい私たちが制御すべきではないでしょうか？周りの人に後ろ指さされる生き方ではなくて誰かに流し喜びを伝える人生を歩むためには人により頼んではいけません。神さまにより頼まなくてはいけません。今の人は人より頼む共依存ばかりです。みんな誰かが自分に何かをしてくれると思っています。そうではなく、それぞれがそれぞれのために何ができるかを考えるべきです。この能力は、私たち人間にしかありません。神さまが「われわれのかたちとして」(創1：26)人格者として認められた唯一の生き物ですから。人格とはあなたが何のために生きているのか、それがしっかりとしていれば私たちがとる全ての行動は全て意味のあるものになります。しかし、それを失って歩むと「まぼろしのない民は全て欲しいままにふるまう」と書かれているように、行き当たりばったりな行動をし、後で後悔をする連続です。この大切な核を心に持つために①確信を得る(神の知恵)神の知恵って何ですか？自分はこうあるべきだと感じたことです。ロゴス(聖書の御言葉)とレイマ(今あなたに語られている言葉)です。自らで神さまの言葉が聞けない時には多くの方があなたに語ってくれます。これをあなたがストレスとして受け取ると、不安やおそれや葛藤をもたらします。今、語られている言葉を神の知恵として受け取るとそれは人を裁く材料になりません。最初の御言葉(5節)に何が正しいことかはそれぞれが神に感謝をしていけばそれは正しいことなのだからそれぞれのおのの確信を持ってやりなさいと書いてあります。(1ヨハ5：10～14)その時に我慢しても神の知恵によりやったことは必ず神さまはきいてくれると書いています。②確信を得る(救いの証)証は、あなたが救われていることとあなたの命は永久にあることを確信しなさいと書いています。その日暮らしをして

いる人は先が見えていないので今我慢することができません。先が見えていれば今を耐えることは可能です。あなたには神さまとともにいるという確信があるのです。永久にどんなことがあっても孤児にはしないとされました。決して一人にされることはありません。今を我慢しなければいけないし、今の時を過ごせば必ずこの地であって2倍うけると書かれています。聖書の中で一番の品格は忍耐と書かれています。あなた自身が勝手なことをしないようにしましょう。救いの証を持って1つの目標に向かって進んでください。今が忍耐の時です。③確信を得る（行いのある愛）（Iヨハ3：1～24）愛があれば人からいわれたことも聞けますし自らが強くなります。たとえ自らが責められてもそれで自らを駄目にすることはありません。愛をもって確信してやっているからです。あなたは簡単な方を選ぶべきではありません。あなたがしたいことをしてしまうのは1つですけど、あなたは核に従うべきです。御言葉に従ってください。神の意志に従ってあなたが今していることが正しいのかを感情的にならずに判断すべきだということです。あなたの心に確信をもってください。何をするにも神の確信を持って物事に臨むべきです。あなたのすることと言いつけが起らないために…。あなたの心に正しい確信を持ってください。まあいいかと思ってやらないようにしましょう。その日の感情によってやらないようにしましょう。自分だけがきれいならいい、自分だけが幸せならいい、というのはガン細胞と一緒にいます。あなたが置かれている立場であなたとともにいる人があなたによって今幸せになっていないならあなたはガン細胞と一緒にいます。自らの悪い部分を殺さなくてはなりません。それができないとあなた自身によって体全体が駄目になるからです。でもその機能があなたには備わっています。悪い部分を取り去ってよい部分を伸ばす機能があるのです。ですからそれを大切にしていきましょう。（要約者：行司佳世）